

平成8年12月6日に発生した「蒲原沢土石流災害」は、平成7年姫川7.11水害による災害復旧に係る工事に従事していた14名の方が土石流に巻き込まれ、尊い生命が奪われた大災害です。災害から30年という節目を迎え、松本砂防事務所では、職員がこの災害を風化させることなく、災害の教訓、砂防工事における安全対策について伝承することが大切と考え、職員勉強会を開催しました。

【職員勉強会 概要】

日時：令和8年5月25日（火）15～17時

場所：松本砂防事務所

（北陸地方整備局管内の砂防関係事務所にはWeb配信を実施）

講演：

- ① 平成8年12月6日「蒲原沢土石流災害」あれから30年
立山・神通砂防ボランティア協会 河村 忠次
※災害当時 松本砂防工事事務所副所長
- ② 砂防工事における安全対策について
北陸地方整備局河川部河川工事課

【職員への教訓】

講演①：

1) 災害時の土石流の特徴

当時の知見では予測ができず、前兆現象もない土石流であった。
土石流は継続的に何波もやってくる。

2) 発災後の迅速で漏れのない情報共有、指揮系統の明確化

3) 捜索活動時の関係機関との連携、被災者家族への丁寧な対応

4) この災害以降、砂防工事の安全対策に係る諸制度が整備された

講演②：

1) 蒲原沢土石流災害以降の制度整備等により、死亡災害は減少傾向。 休業4日以上死傷災害は横ばいの傾向。

2) ICT、DXを活用した無人化施工、モニタリングの高度化によって、より安全な砂防工事を目指す。



勉強会の様子



蒲原沢土石流災害 捜索状況 (H8.12)